

2023年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校</p> <p>2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校</p> <p>3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校</p>
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	社会的・職業的自立に向け、生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。また、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	わかる喜びと自信をもたせ、よりよく問題を解決する力を養うため、基礎学力や思考力・判断力など確かな学力の向上を図る。
3 人間関係作りの推進	温かい人間関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力の向上や居場所作りに努める。
4 特別活動の活性化	望ましい集団活動を通して個性の伸長及び自主的・実践的態度の育成のため、部活動や学校行事等の活性化を図る。
5 基本的生活習慣の確立	他者と協働できるよう、規範意識や自己管理能力を育むため、学校のルールを守り、社会のマナーを身に付けさせる。
6 国際教育の推進	グローバル化が急速に進展する中、外国の人々の多様な価値観を認め共生できるよう、異文化理解の活動を推進する。
7 ICT教育の推進	社会の高度情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むため、情報活用能力の育成を図る。
8 地域貢献活動の推進	奉仕の精神を涵養し、豊かな人間性や社会性を高め、達成感や自己肯定感を醸成するため、地域社会での奉仕活動や体験活動の推進を図る。
9 働き方改革の推進	教職員が健康でやり甲斐が持てるよう業務改善を図るため、より良い職場環境作りに努める。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 授業時間の確保と規律ある授業実施の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムで授業開始・終了を徹底する。 ・節度ある態度で授業に参加できるよう教科担当者と担任・学年担当の連携強化をはかる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に臨む姿勢を保てない生徒に対する指導等、教科担当者と担任・学年担当の連携のとり方に課題がある。教科担当者としての役割を果たしつつ、協力を求めるべき状況については、速やかに連携することが必要である。 ・生徒が主体的に授業に参加できるよう、ICT機器の活用や授業展開の工夫については、継続的に研修を行うことができるようにする。 ・生徒の学習活動の評価を日常的に行うことに留意し、適宜、必要な学習活動の改善を促すとともに、教員自らの指導方法の工夫改善に努める。 ・NOLTY スコラ手帳の活用を継続して、生徒が自らの将来に夢や希望を抱くことができるよう、自己管理能力の育成・向上を図る。
	2 授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに、ICTを活用した授業、AL型の授業展開を意識した研修等を行う。 	B		
	3 適正な観点別評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに作成した評価規準による評価の実践と、必要に応じた評価規準や評価方法の見直しを適宜行う。 	B		
	4 PDCAサイクルを確立し、自己管理能力の育成・向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・NOLTY スコラ手帳の活用を通じて、より良い生活習慣の確立を図る。 	B		
	5 エリア設定科目の継続的な実施に必要な方策を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに基づく授業実施と必要に応じた科目担当者による継続的な実施内容の修正、改善を図る。 	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
図書情報部	1 資料、業務、ルールなど情報整理と共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク設定、PC 設定、年度始末などの定型業務などの情報を集約して図書情報部内で共有できるようにする。 ・ICT 機器使用にかかる取り決めや生徒情報の取扱いにおける取り決めなどのルールを整理してまとめる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・年度切り替え時の業務が滞らないように業務内容の整理と共有を進める。 ・生徒個人端末の授業での利用があまり進まなかった。試験的にロイロノートを全生徒が利用できるようにしてあるので授業で積極的に活用してほしい。 ・今年度スキルアップのための講習会を数回行ったが、参加は少なかった。講習の目標とスケジュールを明示して計画的に講習を設ける必要がある。 ・コンピュータ教室機器の老朽化に伴う整備がスムーズに行えるように協力する。 ・図書館システムの導入に向けてはたらきかけた。来年度には、整備、運用出来るようにしたい。
	2 図書室の情報化	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムを導入できるように導入のめどを立てる。 	C	
	3 職員の業務、生徒の学習に ICT 機器を活用できる環境を整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個人用端末についてスムーズな運用ができるようにサポートする。 	B	
	4 ICT 活用するための教員のスキル向上をはかる	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で ICT 活用できるようアプリの授業での活用について教員にレクチャーする機会を設ける。 	B	
	5 図書室利用者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室利用について啓蒙活動を通して図書室利用者を前年度より増やす。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒 指導部	1 生徒一人一人についての理解の深化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の生徒問題行動状況を見ると、心の部分で問題がある生徒が多いように思われる。暖かさを前面に押し出した関わり方を全教員あげてしていきたい。昨年度にも上げたように、小さな変化を把握できるよう、丁寧なコミュニケーションを取っていきたい。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年同じ課題に取り組んでいるように感じられるが、やはり来年度についても挨拶がしっかりできる人材の育成を図っていきたいと思われる。挨拶ができることによって、コミュニケーション能力が増加し、一人ひとりの可能性が広がっていき、この世の中を自分の力で生き抜ける人材になっていくことを期待したい。 ・生徒と担任との信頼関係の構築を目指すことにより、前向きな思考を持って、アドバイスに対し素直に反応できる人間力の涵養を目指したいと思われる。 ・社会的にも SNS 関連のトラブルにより多くの問題が噴出しており、そこにフォーカスして講話等も実施しているが、使用する側のモラルにどうしても左右されてしまうことが悩ましいところではある。重篤なピンチに陥ってしまえば把握できると思うが、そ
	2 基本的な生活習慣の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年による定期的な服装頭髪検査を行っていききたい。 ・学年主任を中心に、生徒たちをおいていくことなく、見守りながら生活指導をし、躰教育をしていきたい。 	B		
	3 情報安全教育を勧め、危機管理能力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・例年同様に、携帯電話・スマートフォン等の適切な利用方法と SNS 利用時の危険性について、講話を開催することを契機として円滑な利用を身につけさせていく。 ・各担任からの利用マナー指導の徹底を継続していく。 	B		

				の前に理解しなくてはいけないことを学習させるために生徒に絶えず声がけをしていきたい。
	4 薬物乱用防止教育を推し進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の状況では、高校生の逮捕者が出ており、薬物乱用が身近に起きている事実を理解させることから始まると思われる。講話を通して正常な知識の習得を目指す。 	A	
	5 いじめ防止教育を推し進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を中心に、全教員で、絶対にいじめは許さない態度を明確にしていく。 ・年3回（6月・11月・2月）の学校生活に関する調査（いじめ状況確認調査）を行い、状況把握に努める。 ・学年集会及び各HRにおいて、いじめの定義について再確認を行い、思いやりの心の醸成を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解、他者理解能力の養成を行い、相手の立場をしっかりと理解できる人間の育成を推し進めていきたい。コミュニケーション能力の養成をまず一番に推し進めて策を講じていきたい。 ・死亡事故につながる重大事故は発見されていないが、交通マナーの理解及び実践が最大の防御になると思われる。継続的な注意指導が鍵になると信じて対応していきたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路 指導部	生徒一人ひとりの夢を育み、 その夢を実現させる。	<p><対 生徒・保護者></p> <p>①学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課外授業の充実 『平日課外』、『夏季休業中課外』、『自由登校中3年課外』を実施 ・ 家庭学習習慣の確立 Classi 等を活用し、週末・長期休業中課題を配信・確認 ・ 外部(模擬)試験の有効活用 基礎力診断テスト前に事前学習教材の指導および結果の分析 <p>②進路情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンスの充実 進路選択の一助となるよう各学年と連携したガイダンスの実施 ・ 『進路探究室』の充実 開かれた進路室にし、情報公開や情報収集可能な場を提供 ・ 保護者との連携 進路行事等の事前・事後報告による保護者との情報共有 	B	B	<p>①学力の育成</p> <p>平日課外はどの学年も積極的に実施できたが、長期休業中の課外授業については、日程(時間割)や実施する授業やその担当者などの調整が難しく、年度初めに教科主任と連携して計画する必要がある。家庭学習に必要な課題(宿題)を課す授業も少ないので、教員の負担にならないよう、Classiなどのデジタルコンテンツの活用を推進していきたい。基礎力診断テストでは事前学習(ワンウィークトライアル)を宿題にして、テスト前に3科目とも授業で触れるなどの事前指導ができたが、進研模試や看護模試は事前指導や事後指導が出来なかった。有料で受験した生徒のためにも、各教科に協力を仰ぎながら事後指導をしていきたい。</p> <p>②進路情報の周知</p> <p>進路ガイダンスも滞りなく実施することができたが、エリアとの関係も考慮し、年間計画の見直しや内容を精査する必要がある。進路探究室を利用し</p>

	<p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設幼保実習・医療関係実習 各機関と連携強化を図るとともに、『インターンシップ』との差別化する ・資格取得 資格の加点化が加速・拡充する中、資格取得の機会を提供 <p><対 進路先・教員></p> <p>①教員研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベネッセコンテンツ <p>(Classi, High School Online 等)に関する校内研修を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修会への参加 <p>入試改革が行われる中、研修会で知識を身につけ、生徒へ還元する</p> <p>②教員間の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来校者及びその学校や企業から得た情報を職員クラウドに公開 ・研修会で得た知識や情報をを全教職員に共有(必要なら研修会) <p>③進路先への訪問・情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OB や OG の進路先との連携を図り、現役生との進路選択や学習活動に反映さ 	<p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>てPCやプリンタを活用する姿も見られたが、書籍を充実させていきたい。</p> <p>③その他</p> <p>今年度から1年生は Literas 論理言語力検定を実施し、5割近くの生徒が3級を取得できた。エリアも含め、授業を通して資格取得に力を入れたい。</p> <p>①教員研修の充実</p> <p>Benesse の研修は1度しか行うことができなかった。Classi などの有料コンテンツを利用していることもあり、できるだけ多くの教員・生徒に活用してもらい ICT 教育を加速させていきたい。そして、全担任が保護者に対して模試データ解析を含めた面談を行えるよう、研修会の数を増やしていきたい。(年間計画に入れ込むなどを検討)</p> <p>②教員間の情報共有</p> <p>Google や Teams 等を活用して、来校者からの進路情報などを共有できたが、周知までには至らなかった。</p> <p>③進路先への訪問・情報交換</p> <p>大学訪問は 30 校近く実施でき、入試</p>
--	--	-------------------------------------	--

		<p>せていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学・入社後に継続できなかった生徒へのサポート <p>④高大連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設大学・短期大学への受験者数や入学者数を増やす ・併設大学・短期大学の取り組みや入試情報など共有の機会を作る ・上級学校の指定校推薦枠を増やし、進路選択の幅を広げる ・進学・就職後の卒業生の追跡調査情報を管理する 	B	<p>広報との関係構築は出来たが、更に大学を巡り、本校の存在をPRするとともに生徒の進路選択の幅を広げていきたい。</p> <p>④高大連携の強化</p> <p>エリア授業等で併設大・短大との連携が強化されている結果、入学者数は増えているが、推薦枠や入学金などで本校独自の特典がもらえるよう働きかけていきたい。また、本校卒業生が大学を卒業できるよう、在学中にできるだけ学力を養えるよう努力していきたい。</p>
--	--	--	---	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 P T Aによる各事業を通して、健全なる生徒の育成に努める。	<p>(1) 学校と家庭との連携を高め、教育について共通認識を深めるために、総会や評議員会等で意見交換を推進していき、信頼関係を構築し、様々な課題解決に努める。</p> <p>(2) 広報誌「白梅」発行を通して、更なるコミュニケーションを図り、学校が実施している活動や方針について理解を図る。</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会や学校行事、PTA 総会の出席の案内や回答は紙媒体となっており、効率的に回答を得ることが困難となっている。紙媒体から電子化へ推進していき、生産性の高い業務を推進していくべきと考えている。 ・本部役員が野球部とバドミントン部から選出されているため、2つの部活動保護者に偏り負担となっている。それ以外の部活動や学級長等から選出できるよう保護者と協力し環境整備していくことが必要である。 ・渉外部の業務分担あり方を、作業としてではなく、目的や段取りなどを含めた一連のプロセスとして捉えていき、業務内容を習得していく必要がある。
	2 P T Aによる各事業を通して、地域から慕われ愛される学校を目指す。	<p>交通安全と事故防止、生徒の非行防止と良識ある行動や規範意識を推進するため、キャンペーン活動や文化祭等の</p> <p>学校行事への積極的な参加を促していく。</p>	A		
	3 評議員会やP T A総会等の意思決定会合における評議員の参加者数を高める。	<p>早めのアナウンスや普段からの学校教育への理解を図る。</p>	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 校舎及び敷地内において積極的に清掃活動を行ない、生活環境の美化を図る。また、委員会活動の活性化を図り清掃活動などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室及び分担区の清掃をきちんと行い、生活環境美化に取り組み、ごみの落ちていない清浄な環境をつくる。 ・美化委員や校内環境美化のボランティアなどの協力を得て、学校生活に関わる環境の美化を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外のごみの散乱、設備の破損、いたずらについて、その都度清掃、修繕をしたが改善は見られず、同じことの繰り返しであった。特に、トイレについては、使用におけるマナーの周知・徹底が必要である。 ・担任外の先生の人数を考慮し、清掃分担区域の再検討が必要である。 ・男女職員トイレ清掃の徹底。 ・防災避難訓練は、中川商事所有地を避難場所として円滑に実施でき、防災意識を高められた。上記所有地が引き続き借用可能かは不透明なため、実際の緊急時に応じた実践的な退避行動が出来るよう避難場所等の検討が必要。救命講習では、多くの先生方の技術向上を図れた。 ・奨学金関係は、申請や返還手続き等、例年通り遅滞なく適切に行えた。
	2 火災及び地震などの災害対策についての徹底を期し、生徒並びに教職員の防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練を通して、自身の安全確保の仕方や、避難経路を確認することで、万が一の災害時においても可能な限り被害を被らないよう日常的な意識の高揚を図る。 	B		
	3 奨学金（奨学生制度）について、適切な利用ができるように生徒及び保護者に周知徹底することで、生徒の進学機会の創出の一助とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡を漏れなく生徒・保護者に伝え、提出書類の期限等を厳守させるなど、必要な手続きを遅滞なく行なえるよう指導する。 ・適宜説明会を行い、本人・保護者に制度の理解を深めさせ、適切な利用ができるよう促す。 	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
特別活動部	1. 様々な学校活動を通して学内における生徒同士の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を目指す。	・学校行事の組織編成を工夫し、生徒同士がかかわりを持つことのできる運営を実施する。	A	B	<p>・今年度は、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、コロナ前に行っていた学校行事を再び全て行うことができた。文化祭では、過去に行ったことが無い内容を取り入れるなど新たな事に挑戦することができた。しかし、キッチンカーの販売価格が高いという声も上がっているため、次年度は検討しなければならない。委員会活動は、年度初としての会議以降、ほとんど活動がないのが現状であるため、学校行事と合わせて、多くの生徒が活動できる場を作ることが課題である。今年度の部活動加入率は、3年生を含めると約36%であった。加入率を上げるために、部活動紹介等を工夫していきたい。また、部員がいないなどの部活動または同好会は今後精査していく必要がある。地域貢献活動として、今年度からボランティアの会を立ち上げ、地域の清掃活動や子ども食堂等に参加した。</p>
	2. 委員会活動の活性化し、生徒主体の活動を通して、自主的・実践的な態度の育成を目指す。	・各委員会活動が活動予定及び運営要領を策定し、生徒が中心となり主体的に取り組めるようにする。	C		
	3. 部活動の活性化により、明るく活動的な学校生活の実現を目指す。	・部活動を通して、心身を鍛え、明るく健康的な学校生活を送り、同じ目標を持つ活動の中で、クラス活動とは異なるより豊かな人間関係を育成する。	B		
	4. クラス活動を通じた協調性・自主性・社会性の育成、集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	・クラスマッチや好文祭などのクラス活動において、互いを尊重しながら、より良い企画の実現を目指して、意見交換等を積極的に行うなどの機会を作る。	A		
	5. 地域貢献活動を通して、奉仕の精神の涵養、社会性の向上、達成感の醸成をを目指す。	・清掃・美化活動の実践と活動の活発化。また、地域行事やボランティア活動への積極的な参加による体験活動の推進。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教育相談部	1 教育相談の円滑な運用を図り、生徒の自己理解を促し、自ら前進する力を付けるための支援を行う。	・学校生活での友人関係や学習活動だけでなく、身体的な不安や家庭環境についての悩みなどを抱く生徒に対し、担任、学年、保護者、カウンセラーとの連絡・調整を図りながら適切な支援を行う。また、支援を行いながら、自己管理能力や、良好な人間関係を築くことができるためのコミュニケーション能力の育成の指導も行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の教育相談室利用者は、2月29日現在で25名（述べ利用数215回）である。このうち相談室利用20回超の生徒は3名で、他の生徒は1日～数日の利用で長期の利用生徒は比較的少人数であった。カウンセリング実施者は24名（延べ実施回数136回）。これに加えて保護者のカウンセリング2名（延べ回数が2回）であった。 ・指導対応の中には、心療内科など各医療機関や行政機関との連携を図る必要なケースもあった。また、保護者情報の共有などでは、慎重に共通理解を図りながら進めるよう心掛けた。 ・以上を含め、教育相談室の利用・カウンセリングの実施等について、状況に応じた運営は概ねできたと考える。しかし、週1日のスクールカウンセリングは、ほぼ予約・実施が満杯の状況であり、カウンセラーの負担が大きくなっている状況もあった。 ・また、カウンセリングの相談内容(主
	2 研修会を通し、教員の教育相談能力の向上を図る。	・多様で個別性の高い教育相談案件に、より適切に対応する能力の向上を図るため、具体的な事例研究を中心とした職員研修を企画・実施し、教員のカウンセリングマインド力を高める。	A		
	3 「別室登校に関する規程」の一部改正を行う。	・現在運用している規程の第7条及び第8条について、現行に則した表現に改正する。	C		

				<p>訴) は、近年と大きく変わることはなく、学校生活について、友人関係、家庭環境、体調や身体についての悩みなどであった。</p> <ul style="list-style-type: none">・なお、今後とも教員全体が研修に努め、より最善の教育相談対応のできるスキルアップすることが望ましい。
--	--	--	--	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインや進路ガイダンスを通して全生徒が自己目標を掲げ、PDCAサイクルで目標達成できるよう指導する。 ・自己管理能力を育成するためにノルディー手帳を有効活用する。 ・インターンシップにて社会とはどういうところなのかをしっかりと学び、卒業後の進路目標を設定できるように指導する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差はあるが、キャリア教育を通じて、生徒一人ひとりが将来の目標を持ち、目標達成に向けて計画を立てることができた。来年度はさらに細かく計画を立て、年度末には生徒全員、進路目標が明確になるようにする。 ・インターンシップにおいては、学年の先生方の丁寧な指導により、職種や事業所決定をスムーズに行うことができた。3人の3学年の先生の協力もあり、準備も万端で、安心して当日が迎えられそうである。 ・ベーシックでは教科のつまづきを発見することができ、その克服に向け担任・副担でコミュニケーションをとりながら学習指導することができた。放課後の「自主学习」では学年の先生方が忙しい中、生徒のために時間を作ってくださり、親身になって指導していた。その結果、進路マップでのGTZが全体的に向上した。来年度も継続していきたい。
	2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように授業を工夫する。 ・ベーシックの授業において躓きを発見し、基礎学力の向上を目指す。出来る喜びを一人でも多く味わえるようにする。 ・進路マップで成果が出るよう、授業と連携して指導に当たる。 ・ホームルームを通じ、身だしなみと気持ちを整え、落ち着いて授業に向かう環境を作る。 	A		

3 人間関係作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュャーズキャンプなどの行事で協働することを通して、望ましい人間関係を育てる。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるように指導する。 ・生徒がいじめから身を守れるように、HR で生徒を見守り、学年集会等でいじめに対してどのように対応するかを全体に周知する。 ・一人ひとりが互いを尊重し合い、OUR TEAM を築く。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュャーズキャンプでは担任・副担の連携が素晴らしく、各クラス、素晴らしいマンダラチャートを完成することができた。震災学習もでき、充実した2日間であった。次年度の1学年にしっかり引き継ぎたい。 ・夏休み後に問題行動が頻発したが担任の先生がしっかりと生徒と向き合い、粘り強い指導をすることができた。いじめに関しては、決して無くなる問題ではないので、今まで通り「報・連・相」をしっかりとし、迅速に対処できるようにする。 ・ベーシックは完全タブレットだった。紙ベースよりはるかに使いやすくと好評であった。これからはロイロノートなどいろんなことにチャレンジしていける学年を目指したい。 ・今年度もまだ仕事量の偏りがあったので、来年度は分担を細かくし、偏りがなくなるように改善していきたい。 ・この1年間、学年の先生にはいろんな場面で支えていただきました。今の学年があるのは先生方のおかげです。本当にありがとうございました。来年
4 ICT 教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット導入初年度であるため、図書情報部や進学者と連携を図り、教員、生徒がしっかり使いこなせるようにする。 	A	
5 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事量の偏りをなくすため、所属する校務分掌をベースに係分担表を作成し、完全分担制を目指す。 ・報告、連絡、相談を密にし、一人ひとりがお互いの状況を把握する。 ・助け合いを第一に。困っている教員や、忙しい教員など学年の先生一人ひとりがお互いに声を掛け合い、助け合う ONE TEAM となる。 	A	

					度も OURTEAM の学年目標で頑張りましよう！
--	--	--	--	--	---------------------------

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第2学年	1 キャリア教育の充実 ・職業理解 ・文理選択 ・大学選択	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを通して、自己の適正と職業理解を図り、進学または就職の選択をする。そのために必要となる学習分野を把握し、大学選びに繋げていく。 ・就職希望者には、インターンシップの実施により、職種及び事業所への理解を深める。 ・スコラ手帳を有効活用し、PDCA サイクルを習慣化する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文理、大学選択を目的とした進路ガイダンスの実施や、夏休み中のオープンキャンパス参加により、進路選択に向けて有意義な指導ができた。 ・就職希望者 31 名が 12 月のインターンシップに参加し、事業所への理解を深めることができた。 ・小論文模試を目標に、計画的に指導を行ったことにより、小論文の基礎を身に付けさせることができた。3 年次の志望理由書指導に繋げていきたい。 ・ベーシックでは、生徒の進度の差異が課題であったが、各クラスの特徴を生かした指導を検討するなど工夫を凝らした。Pull Top、Bottom Up が今後の課題である。 ・クラスマッチや、文化祭などの行事では生徒同士で協働し、クラスが一丸となってやり遂げる姿が見られた。他者との関わりを通して、コミュニケーション力の向上や思いやりの気持ちが持てるような人材育成に今後も努めたい。
	2 確かな学力の向上 ・学びに向かう姿勢 ・基礎学力の定着 ・学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えようとする力、他者と学び合う力を育み、忍耐強く学ぶ姿勢を養う。 ・ベーシック、小論文指導などを丁寧に行い、基礎学力と表現力を向上させる。 ・進路マップや資格検定試験などに目的意識をもって挑戦し、自己を高められるようにする。 	B	
	3 人間関係作りの推進 ・他者への寛容と感謝の気持ち ・コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスマッチ、文化祭などの校内行事に積極的に参加することで、他者と協働する喜びを知る。 ・クラス内での対話を大事にし、自己表現力と他者への思いやり、感謝の気持ちを持てる人間力の育成に努める。 	A	

	<p>4 特別活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内活動と部活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動や生徒会、部活動に積極的に取り組むことで、他者との協働を通して逞しく生きる力を養う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会、生徒会、部活動に加え、ボランティア活動にも積極的に取り組む生徒が見られた。今後も生徒主体で活動できる機会を設け、他者のために役立つ喜びを味わって欲しい。 ・定期的な身だしなみ習慣、髪型服装検査を実施し、学年全体で取り組んだことで、徐々に規範意識が身に付いてきている。今後も継続的に指導し、社会のマナーとして身に付くように指導をしていく。 ・修学旅行の事前学習では多様な文化への理解を深めると共に、戦争と平和について考えさせてきた。沖縄の人々との交流によって、寛容さと感謝の気持ち、生きること、幸せとは何かを考えさせる機会としたい。
	<p>5 基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーと規範意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや言葉遣いを、日々丁寧に指導することで、気持ちを整え、落ち着いた日常生活を送ることができるようにする。 ・成人としてのマナーや規範意識を身に付けさせる。 	B	
	<p>6 国際教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生とSDGs理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行を通して、多様な社会に理解を示し、身近なSDGsを考えさせる。また、SDGsを通して、課題解決能力を養うと共に、未来に繋げて今を生きることの大切さを気付かせる。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題																												
第3学年	1 キャリア教育の充実 【進路実現】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に寄り添いつつ、積極的な意見交換を行いながら進路実現を図る。 ①ノルティーマニュアル ②キャリアデザイン ③進路ガイダンス ④二者面談(三者面談) 等 ※保護者との連携 ※進路指導部との連携 (情報共有) 	A	A	<p>【進路実績】在籍 164 名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>昨年%</th> <th>本年度</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学</td> <td>32%</td> <td>52 名</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>短大</td> <td>6%</td> <td>13 名</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>41%</td> <td>49 名</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>19%</td> <td>43 名</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>準備</td> <td>2%</td> <td>7 名</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>164 名</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*主な進学先 東京理科大に加え、帝京大、文京大、東洋大と新たな進路先を切り開くことができた。</p> <p>■進路実績の背景 ①学年の進路指導 キャリア教育活動に加え、3年次を見据えて当学年が取り組んできた進路指導が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路達成プログラム (2年次後半) ・志望理由書・自己PR対策パック (3年次前半) <p>なお、このプログラムに対して当学年生徒の9割近くが進路活動 (自己理解/情報収集方法/進路選択) において役</p>		昨年%	本年度	%	大学	32%	52 名	32%	短大	6%	13 名	8%	専門	41%	49 名	30%	就職	19%	43 名	26%	準備	2%	7 名	4%	合計		164 名	
		昨年%	本年度			%																											
	大学	32%	52 名			32%																											
	短大	6%	13 名			8%																											
専門	41%	49 名	30%																														
就職	19%	43 名	26%																														
準備	2%	7 名	4%																														
合計		164 名																															
2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、基礎力診断テストの「振り返り」を行い、学習方法等の確認及び改善をして学力の向上を図る。(=PDCA サイクルの定着化) 	B																															
3 人間関係作りの推進 学年目標 「ONE TEAM」	<ul style="list-style-type: none"> ・高校最後の一年間であり、「思いやり」「感謝」の重要性を適時生徒に働きかけ、より一層友人や学年、教員との絆を深められるようにする。 	A																															
4 特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・高校最後の一年であり、各学校行事を積極的に取り組み、有意義な行事にできるようにする。 ・上級生として後輩の手本となる言動 (取り組み方等) ができるよう 	A																															

		にする。		に立ったと回答している。
	5 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた服装（身だしなみ）をできるようにする。 EX 朝SHRでのジャケット着用等 ・状況に応じた言葉遣いもできるようにする。 ・公共施設の使い方におけるマナーも向上させる。（思いやり） ※保護者との連携	B	②学校行事の変更 昨年度の進路活動の反省から学校行事を変更したことも進路活動を円滑し実績に反映された。 <ul style="list-style-type: none"> ・三者面談実施時期（5月から） ・3年次の前期期末テスト7月実施 ③進路指導部との連携 常に学年及び担任が連携及び共通理解を図りつつ進路指導を行ったことも大きな要因と言える。 <p style="text-align: center;">今後も大学入試の変化、生徒の状況（養育手帳等）などきめ細かな対応が求められるため、次年度も学年と進路指導部の連携が必須であるのと同時に、他学年もその学年の進路活動に注視することが求められる。</p>